

将来の結婚や子どもを持つことに対する前向きな意識と現在の食知識、食態度、食習慣、食に関する主観的 QOL、及び過去の食体験の関連について

研究分担者 林 芙美(千葉県立保健医療大学健康科学部)

研究協力者 武見 ゆかり(女子栄養大学栄養学部)

佐藤 ななえ(盛岡大学栄養科学部)

【目的】若い男女における現在の食知識、食態度、食習慣、食に関する主観的 QOL(以下、SDQOL)、及び過去の食体験が、将来の結婚や子どもを持つことに対する前向きな意識と関連があるか検討すること。

【方法】平成 25 年 12 月～翌年 3 月までに、全国 17 施設の高校生・大学生を対象に無記名の自記式質問紙調査を実施した。回答が得られた 3,055 名のうち、本研究の解析に用いたデータに不備のない者 2,360 名(高校生 1,400 名、大学生 960 名; 男性 1,111 名、女性 1,249 名)を分析対象者とした。結婚や子どもを持つことに対する意識と食知識、食態度、食習慣、SDQOL、及び過去の食体験との関連を検討するため、基本属性(年齢、学校区分、地域)及び将来における経済的不安感を調整した多重ロジスティック回帰分析を男女別に行った。

【結果】「いずれ結婚するつもり」と回答した者は男性 74%、女性 87%、「子どもは欲しい」と回答した者は男性 85%、女性 91%で、男女間に有意差が認められた。男性では、栄養バランス、SDQOL が良好である者は結婚・子どもの両方と関連していた。女性では、SDQOL のみ結婚・子どもの両方と関連があった。葉酸摂取時期の適正な知識は男女とも結婚のみ関連が見られた。また、過去の食体験は、性別に関係なく結婚・子どもの両方と関連していた。

【結論】現在の食生活や過去の食体験が良好であることは、将来の結婚や子どもを持つことに対する前向きな態度と関連している可能性が示唆された。

A. 研究目的

近年、若年男女の結婚意識が消極化していることが、2010 年に国立社会保障・人口問題研究所が実施した出生動向基本調査により報告されている¹⁾。しかし、結婚することの具体的な利点として、男女とも「子供や家庭を持てる」を挙げる者は増加傾向にあることから、結婚意欲は出産意欲等の家族形成意欲と強く結びついていると考えられる。

また、若者は、理想としては子どもを 20 代に第 1 子を産み、トータルで 2~3 人は子どもを持ちたいと考えている。しかし、平均出産時年齢の高齢化や経済的な要因により、希望する妊娠・出産が

出来ていない現実がある。そこで、どのように希望するライフコースを実現していくかを後押しするために、適切な出産や子育てについての理解を深め、出産・育児に対する自信を高めていくための効果的な支援の提供が、現在の少子化対策において重要な課題となっている。

さらに、若年女性のやせが、低出生体重児のリスク等と関連していることも指摘されているため、望ましい栄養状態と食行動の実現に向けた、必要な知識の修得、望ましい食態度の形成、その実現に必要なスキルの修得は、妊娠・出産・子育ての希望が実現できる社会にむけて必要な要素の 1 つと考える。

小林²⁾によると、未来の家庭的食事に対する意識を高めるには、現在の食習慣が重要であり、過去の食体験は、現在の食習慣を介して未来の家庭的食事に間接的に影響していることが報告されている。しかし、現在の肯定的な家族形成意識と、現在あるいは過去の栄養・食生活の関連については報告がない。

そこで、本研究では、若い男女における現在の食知識、食態度、食習慣、食に関する主観的QOL(以下、SDQOL)、及び過去の食体験が、将来の結婚や子どもを持つことに対する前向きな意識と関連があるか検討することを目的とした。

B. 研究方法

平成 25 年度に高校生・大学生を対象に行った『若い男女における結婚・出産についての意識調査』(資料 1)のデータを用い、二次解析を行った。

1. 分析対象者

平成 25 年 12 月～平成 26 年 3 月までに、全国 17 施設の高校生・大学生を対象に無記名の自記式質問紙調査を実施した。回答が得られた 3,055 名のうち、本研究の解析に用いたデータに不備の無い者 2,360 名(高校生 1,400 名、大学生 960 名;男性 1,111 名、女性 1,249 名)を分析対象者とした。

2. 調査項目

本研究に用いた項目は以下のとおりである。

1) 基本属性

対象者の基本属性として、性別(男女)、学校区分(高校、大学)、地域(施設)を用いた。

2) 将来の経済的不安感

「あなたは、これから先 10 年間の自分自身の生活について経済的な不安を感じていますか?」という質問に対して、「強く感じている」「やや感じている」「どちらともいえない」「あまり感じていない」「全く感じていない」の 5 肢で回答を得た。解

析では、「やや・強く感じている」「どちらともいえない」「あまり・全く感じていない」の 3 区分に対象者を分類し、分析に用いた。

3) 将来の結婚、子どもを持つことに対する意識

将来の結婚に対する意識は、「あなたの結婚に対する考えを教えてください。自分の一生を通じて考えた場合、最もあてはまるものひとつをで囲んでください」との質問に対し、「いずれ結婚するつもり」「一生結婚するつもりはない」「考えたことがない」の 3 肢で回答を得た。解析では、「いずれ結婚するつもり」とそれ以外に回答者を分類し、分析に用いた。

子どもを持つことに対する意識は、「あなたは、将来、子供が欲しいと思っていますか?現在の気持ちに近い方のいずれかを で囲んでください」との質問に対し、「子供は欲しくない」「子供は欲しい」の 2 肢で回答を得た。

4) 葉酸摂取に関する食知識

葉酸摂取に関する食知識として、「葉酸不足のリスク」「葉酸の摂取時期」の 2 項目を把握した。

「葉酸不足のリスク」は、「葉酸という栄養素(ビタミン)の摂取不足を予防することで、お腹の中の赤ちゃんに起こる神経管閉鎖障害という病気の危険度を下げると報告されていることを知っていましたか?」という質問に対して、「知っている」「聞いたことはあった」「知らなかった」の 3 肢で回答を得た。解析では、「知っている」とそれ以外に回答者を分類し、分析に用いた。

「葉酸の摂取時期」は、お腹の中の赤ちゃんに起こる神経管閉鎖障害という病気の危険度を下げするために、加工食品などに添加されている葉酸(プテロイルモノグルタミン酸)を付加的に 400 μg/日とることが推奨されていますが、いつ頃とるとよいと思いますか?との質問に対して、「妊娠前のみ」「妊娠前から妊娠後 3 ヶ月間」「妊娠後 3 ヶ月間のみ」「妊娠中、全期間を通じて」「その他」「わからない・知らない」の 6 肢で回答を得

た。そのうち、適正摂取時期である「妊娠前から妊娠後3ヶ月間」とそれ以外に回答者を分類し、分析に用いた。

5)現在の食態度

現在の食態度は、「料理の楽しさ」「料理への自信」の2項目を用いた。

「料理の楽しさ」は、過去6ヶ月間を振り返り、「料理するのは楽しい」との質問に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば当てはまらない」、「当てはまらない」の5肢で回答を得た。解析では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した者を「楽しい」とし、それ以外の者は「それ以外」と回答者を分類し、分析に用いた。同様に、「料理への自信」は、「料理をすることに自信がある」という質問に対する回答を、「自信があり」と「それ以外」に回答者を分類し、分析に用いた。

6)現在の食習慣

現在の食習慣は、「栄養バランス」「野菜料理」の2項目で把握した。

「栄養バランス」は、「あなたは、1日のうち、主食(ごはん、パン、めん類等)・主菜(卵、肉、魚、大豆、大豆製品等が主体のおかず)・副菜(野菜、海藻、いも類等が主体のおかず)のそろった食事をどれくらいとっていますか？最も当てはまるものひとつを で囲んで下さい」との質問に対して、「1日に2回以上」「1日に1回」「週に4~5日」「週に2~3回」「週に1回以下」の5肢で回答を得た。健康日本21(第二次)では、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上の日がほぼ毎日の者を割合の増加」を目標に掲げていることから、解析では「1日2回以上」と「1日1回以下」に回答者を分類して用いた。

「野菜料理」は、「あなたは、平均すると1日に野菜料理(野菜を主な材料とした料理)を何皿ぐらい食べていますか？1皿は小鉢1コ分程度と

考えて下さい。野菜ジュースは含めません。過去1ヶ月をふりかえって、あてはまるものひとつを で囲んでください。」との質問に対して、「ほとんど食べない」「1~2皿」「3~4皿」「5~6皿」「7皿以上」の5肢で回答を得た。食事バランスガイド(厚生労働省・農林水産省)では、野菜料理の目安を5皿程度としていることから、「1日5皿以上」と「1日4皿以下」に回答者を分類して用いた。

7)食に関する主観的QOL(SDQOL)

SDQOLは、會退ら³⁾の4項目からなる尺度を用いて把握した。SDQOLは、食事時間が楽しい、食事の時間が待ち遠しい、食卓の雰囲気は明るい、日々の食事に満足している、の4項目からなり、信頼性・妥当性が確認されている。回答はそれぞれの項目に対して「当てはまる」(5点)、「どちらかといえば当てはまる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば当てはまらない」(2点)、「当てはまらない」(1点)とし合計得点を算出した。解析では、中央値(16点)以上と中央値以下に回答者を分類し、分析に用いた。

8)過去の食体験

過去の食体験は、「あなたの小学生の頃の食生活を思い出してみてください。自分の家は、食事が楽しく心地よかったという印象を持っていますか？」との質問に対して、「持っている」「どちらかといえば持っている」「どちらともいえない」「どちらかといえば持っていない」「全く持っていない」の5肢で回答を得た。解析では、「持っている」「どちらかといえば持っている」を「楽しく心地よかった」とし、「どちらともいえない」「どちらかといえば持っていない」「全く持っていない」を「それ以外」として回答者を分類し、分析に用いた。

3.統計解析

検討に用いた項目について、男女及び学区区分間で²⁾検定を用い記述的な検討を行った。さらに、結婚や子どもを持つことに対する意識と

食知識や食態度、食習慣、SDQOL、及び過去の食体験との関連についてロジスティック回帰分析を用いて行った。モデル1では、各項目について粗オッズ比及び 95%信頼区間を求め、モデル2では性別、学校区分、地域、及び将来における経済的不安感を調整したオッズ比及び 95%信頼区間を多重ロジスティック回帰分析により求めた。いずれの検討も男女別に行った。すべての統計解析には IBM SPSS Statistics Ver. 22 を用い、有意水準は 5%とした。

(倫理面への配慮)

調査に際しては、回答は自由意志に基づくものであることを文書にて説明し、回答を持って協力を同意したとみなした。なお、協力を希望しない学生に対して、授業等で不利益が生じないように配慮した。本研究の実施にあたっては、「疫学研究に関する倫理指針」(厚生労働省)を遵守し、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の審査承認を受けた(承認番号 25 - 268)。

C. 研究結果

1. 男女別にみた対象者の基本属性及び主な調査項目への回答状況(表 1)

対象者の性別は、高校で男性が約 8 割、大学では女性が約 6 割で、学校区分で男女の分布に有意差がみられた。また、将来の経済的不安では、「やや・強く感じている」と回答した者が最も多く、男女ともに半数を超えていた($p=0.004$)。

将来の結婚・子どもについては、男女とも望む者が多かった。まず、「いずれ結婚するつもり」は、男性 74.4%、女性 87.2%であり、有意に女子の方が多かった($p<0.001$)。「子供は欲しい」では、男性 84.8%、女性 90.8%と、男女間に有意差がみられた($p<0.001$)。

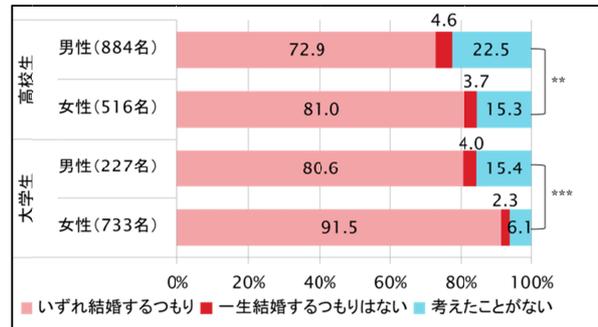


図 1 結婚に対する考え(学校、男女別)

²検定: ** $p<0.01$, *** $p<0.001$

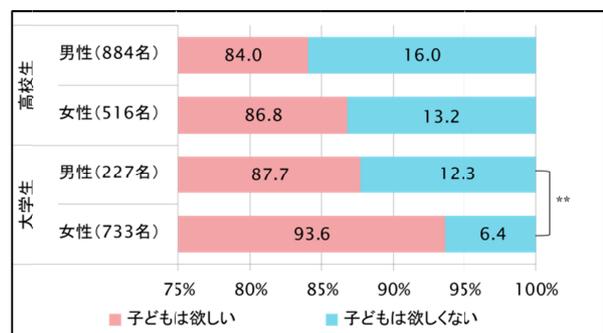


図 2 子どもを持つことに対する考え(学校、男女別)

²検定: ** $p<0.01$

葉酸に関する食知識では、男女とも知らない者が多かったが、いずれの項目で女性の方が適正回答者は多かった($p<0.001$)。

食態度では、料理の楽しさでは、女性で有意に「楽しい」と回答した者が多かった($p<0.001$)。一方で、料理への自信では、男女とも「自信あり」と回答した者の方が少なく、有意な男女差はみられなかった。

現在の食習慣のうち、栄養バランスでは、女性に比べて男性で適正者が多かった($p<0.001$)。一方で、野菜料理では、有意な男女差はみられなかった。

過去の食体験、及び SDQOL はいずれも男女間で有意な差が見られ、女性の方が良好な回答をする者が多かった($p<0.001$)。

2. 将来の結婚・子どもを持つことに対する意識と現在の食知識、食態度、食習慣及び SDQOL の関連について(表 2、表 3)

将来の結婚・子どもを持つことに対する意識と現在の食知識、食態度、食習慣及び SDQOL の関連について検討した。葉酸に関する食知識は、男女とも子どもを持つことに対する前向きな姿勢と関連がみられなかった。一方で、葉酸の摂取時期に関する知識は、結婚に対する前向きな態度と男女とも有意な関連が見られた(表 2)。

食態度、過去の食体験、及び SDQOL は、男女とも結婚・子どもを持つことに対する前向きな態度と有意に関連していた。

現在の食習慣では、男性のみ栄養バランスが良好な者において、結婚や子どもを持つことに対する前向きな態度が示された。女性では、同様の関連性は見られなかった。また、男女とも、野菜料理とは有意な関連は見られなかった。

D. 考察

本研究では、高校生・大学生の若い男女を対象に、将来の結婚及び子どもを持つことに対する前向きな態度と、現在の食知識、食態度、食習慣、SDQOL、及び過去の食体験の関係を検討した。その結果、結婚や子どもを持つことに前向きな態度は、高校生・大学生ともに、男性に比べ、女性で多かった。また、多重ロジスティック回帰分析の結果、現在の食態度や SDQOL、過去の食体験が良好である者は、将来に対する性別や経済的な不安感に関係なく、結婚や子どもを持つことに対して前向きな態度を持っていることが分かった。また、男性のみで、葉酸の摂取時期に関する食知識や栄養バランスとの有意な関連が示された。

先行研究²⁾では、未来の家庭的食事に対する意識は、現在の食習慣を介して、過去の食に関する環境や体験も間接的に影響することを報告している。モデル 2 では、性別に関係なく、現在の

食生活や過去の食体験が良好な者では、結婚や子どもを持つことに前向きであった。したがって、現在の食生活の質や、過去の食体験は、良好なライフプランニングに影響する可能性が示唆された。

なお、葉酸に関する食知識では、葉酸不足のリスク並びに適正な摂取時期のいずれにおいても、適正な回答者が男女とも少なかった。葉酸は、妊娠可能な年齢の女性において大切な栄養素であり、十分な摂取が望まれる。したがって、今後の栄養教育においては、葉酸摂取と神経管閉鎖障害発症リスク低減に関する知識の普及や、若い男女のヘルスリテラシーの向上を狙った取り組みが改めて重要であると考えられる。

本研究の限界として、対象者が一部の協力の得られた高校生・大学生であったことがある。したがって、結果の解釈には留意が必要である。結論を一般化するためには、適正なサンプリングにより調査を行うことが今後の課題である。

E. 結論

現在や過去の食生活に満足度が高い者では、将来の経済的不安に関わらず、前向きな家族形成意欲を持つ可能性が高かった。したがって、子どもの頃から家族での楽しい共食機会を増やすことは、若い男女の結婚や出産に関するヘルスプロモーションにおいても重要な要素であると考えられた。また、食生活の満足度だけでなく、料理の楽しさも性別に関係なく関連していた。そこで、学校教育においては、家庭科等において、調理や食事管理のスキル修得だけでなく、食事づくりが楽しいという前向きな姿勢も育めるよう、カリキュラムの目的や内容を工夫していくことが望まれる。

【参考文献】

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所. 第 14 回 出生動向基本調査 - 結婚と出産に関する

全国調査-. 2010年

- 2) 小林敬子. 過去の食に関する環境および体験が現在および未来の食生活に及ぼす影響. 学校保健研究 2003; 45: 200-217.
- 3) 會退友美, 赤松理恵, 林芙美, 他. 成人期における食に関する主観的 QOL (subjective diet-related quality of life(SDQOL))の信頼性と妥当性の検討. 栄養学雑誌 2012; 70: 181-187.

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表
 - 1) 林芙美, 西尾彰泰, 堀田亮, 佐渡忠洋, 吉川弘明, 足立由美, 松浦賢長, 山本眞由美: 高校生・大学生における将来の結婚や子どもを持つことに対する意識と現在の食知識、食習慣、食に関する主観的QOLの関連について. 第61回日本学校保健学会学術大会 於 石川県教育会館 2014.11.16(石川県金沢市)

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

表1 対象者の基本属性及び主な調査項目への回答状況(男女別)

		男性(n = 1,111)		女性(n = 1,249)		2
		n	%	n	%	
基本属性						
学校区分	高校	884	79.6	516	41.3	<0.001
	大学	227	20.4	733	58.7	
将来の経済的不安	やや・強く感じている	592	53.3	703	56.3	0.004
	どちらともいえない	308	27.7	275	22.0	
	あまり・全く感じていない	211	19.0	271	21.7	
将来の結婚・子どもについて						
結婚	いずれ結婚するつもり	827	74.4	1,089	87.2	<0.001
	それ以外	284	25.6	160	12.8	
子ども	子供は欲しい	942	84.8	1,134	90.8	<0.001
	子供は欲しくない	169	15.2	115	9.2	
食知識						
葉酸不足のリスク	知っている	251	22.6	421	33.7	<0.001
	それ以外	860	77.4	828	66.3	
葉酸の摂取時期	妊娠前から妊娠後3ヶ月間	131	11.8	211	16.9	<0.001
	それ以外	980	88.2	1,038	83.1	
食態度						
料理の楽しさ	楽しい	571	51.4	809	64.8	<0.001
	それ以外	540	48.6	440	35.2	
料理への自信	自信あり	280	25.2	315	25.2	0.99
	それ以外	831	74.8	934	74.8	
食習慣						
栄養バランス	1日2回以上	484	43.6	358	28.7	<0.001
	1日1回以下	627	56.4	891	71.3	
野菜料理	1日5皿以上	75	6.8	83	6.6	0.92
	1日4皿以下	1,036	93.2	1,166	93.4	
SDQOL	中央値以上	546	49.1	743	59.5	<0.001
	中央値以下	565	50.9	506	40.5	
過去の食体験	楽しく心地よかった	849	76.5	1,015	81.3	0.004
	それ以外	261	23.5	234	18.7	

表2 結婚に対する前向きな態度と、現在の食知識、食態度、食習慣、SDQOL、及び過去の食体験の関連(男女別)

	男性 (n=1,111)						女性 (n=1,249)					
	モデル1			モデル2			モデル1			モデル2		
	人数(%) [*]	粗オッズ比	95%CI	調整オッズ比	95%CI	人数(%) [*]	粗オッズ比	95%CI	調整オッズ比	95%CI		
食知識 葉酸不足のリスク	187 (74.5)	1.00	0.73 - 1.39	0.96	0.69 - 1.33	381 (90.5)	1.61	1.11 - 2.36	1.15	0.77 - 1.72		
それ以外	640 (74.4)	1.00		1.00		708 (85.5)	1.00		1.00			
食態度 葉酸の摂取時期	109 (83.2)	1.81	1.12 - 2.92	1.80	1.11 - 2.92	197 (93.4)	2.30	1.30 - 4.07	1.94	1.09 - 3.47		
それ以外	718 (73.3)	1.00		1.00		892 (85.9)	1.00		1.00			
食習慣 料理の楽しさ	456 (79.9)	1.81	1.37 - 2.38	1.82	1.38 - 2.39	728 (90.0)	1.97	1.41 - 2.75	2.14	1.52 - 3.02		
それ以外	371 (68.7)	1.00		1.00		361 (82.0)	1.00		1.00			
食態度 料理への自信	224 (80.0)	1.51	1.09 - 2.10	1.49	1.07 - 2.07	291 (92.4)	2.07	1.31 - 3.26	2.33	1.47 - 3.70		
それ以外	603 (72.6)	1.00		1.00		798 (85.4)	1.00		1.00			
食習慣 栄養バランス	377 (77.9)	1.39	1.05 - 1.83	1.51	1.14 - 2.01	312 (87.2)	1.00	0.69 - 1.44	1.12	0.77 - 1.63		
1日2回以上	450 (71.8)	1.00		1.00		777 (87.2)	1.00		1.00			
1日1回以下	52 (69.3)	0.76	0.46 - 1.27	0.81	0.48 - 1.35	73 (88.0)	1.08	0.55 - 2.13	1.19	0.59 - 2.38		
野菜料理	775 (74.8)	1.00		1.00		1,016 (87.1)	1.00		1.00			
SDQOL 中央値以上	436 (79.9)	1.76	1.34 - 2.32	1.71	1.30 - 2.26	667 (89.8)	1.74	1.25 - 2.44	1.61	1.14 - 1.72		
中央値未満	391 (69.2)	1.00		1.00		422 (83.4)	1.00		1.00			
過去の食体験 楽しく心地よかった	676 (79.6)	2.89	2.15 - 3.89	2.78	2.06 - 3.76	911 (89.8)	2.76	1.92 - 3.96	2.58	1.78 - 3.74		
それ以外	150 (57.5)	1.00		1.00		178 (76.1)	1.00		1.00			

* 各項目において「(いずれ結婚するつもり」と回答した者の人数と割合 (%) を示した。

モデル1では、各変数の粗オッズ比及び95%信頼区間を求めた。

モデル2では、年齢、地域、区分(大学・高校)、10年先までの経済的な不安を調整し、調整後オッズ比及び95%信頼区間を求めた。

表3 子どもを持つことに対する前向きな態度と、現在の食知識、食態度、食習慣、SDQOL、及び過去の食体験の関連(男女別)

	男性 (n=1,111)						女性 (n=1,249)					
	モデル1			モデル2			モデル1			モデル2		
	人数(%) [*]	粗オッズ比	95%CI	調整オッズ比	95%CI	人数(%) [*]	粗オッズ比	95%CI	調整オッズ比	95%CI		
食知識	208 (82.9)	0.83	0.57 - 1.21	0.82	0.56 - 1.20	386 (91.7)	1.18	0.78 - 1.79	0.89	0.57 - 1.39		
葉酸不足のリスク	734 (85.3)	1.00		1.00		748 (90.3)	1.00		1.00			
葉酸の摂取時期	117 (89.3)	1.57	0.88 - 2.81	1.58	0.88 - 2.84	199 (93.8)	1.66	0.91 - 3.02	1.45	0.79 - 2.66		
食態度	825 (84.2)	1.00		1.00		936 (90.2)	1.00		1.00			
料理の楽しさ	503 (88.1)	1.70	1.22 - 2.37	1.72	1.23 - 2.40	752 (93.0)	2.00	1.36 - 2.95	2.13	1.44 - 3.15		
楽しい	439 (81.3)	1.00		1.00		382 (86.8)	1.00		1.00			
料理への自信	252 (90.0)	1.84	1.20 - 2.83	1.82	1.18 - 2.80	294 (93.3)	1.57	0.96 - 2.56	1.72	1.05 - 2.83		
自信あり	690 (83.0)	1.00		1.00		840 (89.9)	1.00		1.00			
食習慣	422 (87.2)	1.40	1.00 - 1.96	1.50	1.06 - 2.11	323 (90.2)	0.91	0.60 - 1.38	1.02	0.67 - 1.57		
栄養バランス	520 (82.9)	1.00		1.00		811 (91.0)	1.00		1.00			
野菜料理	63 (84.0)	0.94	0.49 - 1.78	0.98	0.52 - 1.87	73 (88.0)	0.72	0.36 - 1.44	0.79	0.39 - 1.60		
SDQOL	879 (84.8)	1.00		1.00		1,061 (91.0)	1.00		1.00			
中央値以上	487 (89.2)	2.00	1.42 - 2.81	1.98	1.40 - 2.79	686 (92.3)	1.56	1.06 - 2.29	1.51	1.02 - 2.24		
中央値未満	455 (80.5)	1.00		1.00		448 (88.5)	1.00		1.00			
過去の食体験	743 (87.5)	2.23	1.57 - 3.16	2.13	1.50 - 3.03	942 (92.8)	2.82	1.87 - 4.25	2.76	1.81 - 4.19		
楽しく心地よかった	198 (75.9)	1.00		1.00		192 (82.1)	1.00		1.00			
それ以外												

* 各項目において「子供は欲しい」と回答した者の人数と割合(%)を示した。

モデル1では、各変数の粗オッズ比及び95%信頼区間を求めた。

モデル2では、年齢、地域、区分(大学・高校)、10年先までの経済的な不安を調整し、調整後オッズ比及び95%信頼区間を求めた。